

2024 年度
事業報告書

2024 年 4 月 1 日から
2025 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

【総合活動】

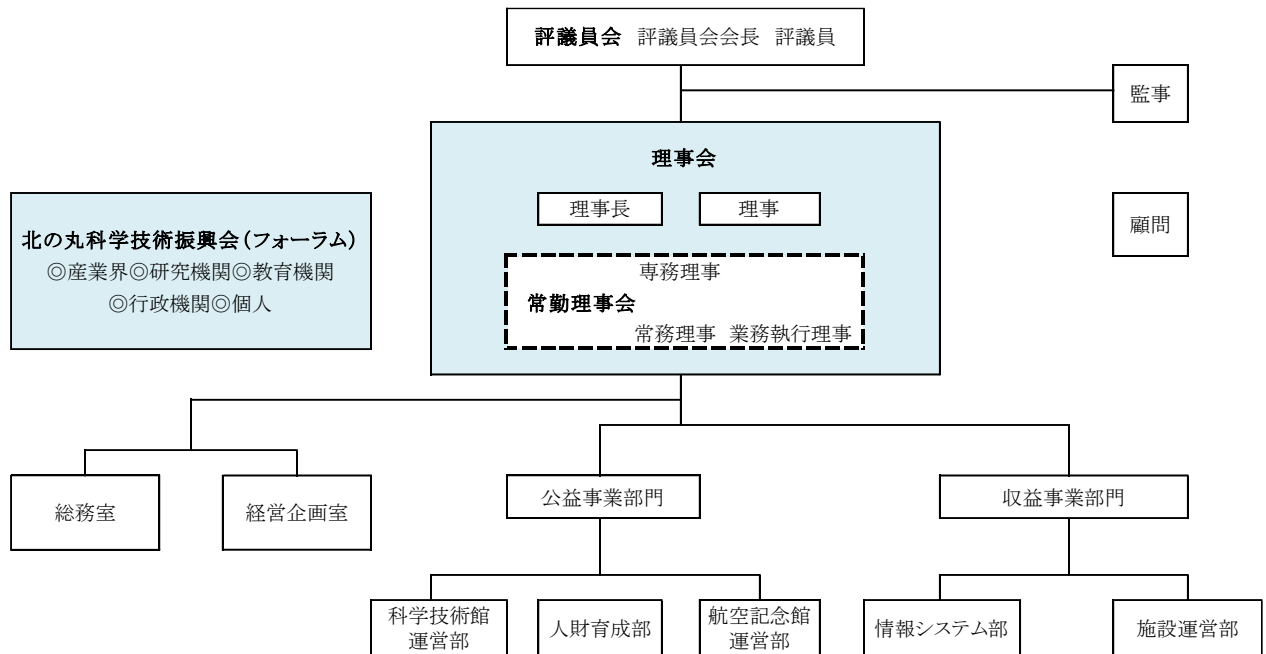
1. 当財団の組織	1
2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担	1
3. 会議の開催	2
4. 対外機関との連携活動	2
5. 組織内の活動	3
6. 広報活動	3
7. 新型コロナウイルス等感染症対策について	4

【事業活動】

I. 科学技術振興事業	5
1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援	5
2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催	16
3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究	21
II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業	22
III. 科学技術館施設の利用促進事業	23
IV. 補助を得て実施する事業	23
V. 助成を得て実施する事業	23

[総合活動]

1. 当財団の組織 (2025年3月31日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2025年3月31日現在)

氏名	業務執行理事	役職	業務分担
東原 敏昭	代表理事	理事長	法人代表
吉田 忍	代表理事	専務理事	法人代表 財団経営全般 航空記念館運営部担当 所沢航空発祥記念館館長(兼)
水木 達郎	業務執行理事	常務理事	財団経営全般(専務理事補佐) 経営企画室担当 科学技術館運営部担当
榊水 久恒	業務執行理事	常務理事	総務室担当 情報システム部担当 施設運営部担当 科学技術館建屋改修担当
木本 徹	業務執行理事	理事	人財育成部担当 人財育成部部長(兼)

3. 会議の開催

(1) 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

①第 14 回定時評議員会 2024 年 6 月 27 日

議案 1. 2023 年度の決算書類の承認の件

議案 2. 評議員選任の件

議案 3. 理事選任の件

②第 17 回臨時評議員会 2025 年 3 月 11 日

決議事項なし

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

①第 25 回通常理事会 2024 年 6 月 10 日

議案 1. 2023 年度の事業報告及び決算書類の承認の件

議案 2. 定時評議員会の招集の件

議案 3. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

議案 4. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件

議案 5. 2024 年度補助・助成事業実施に関する件

議案 6. 科学技術館再整備計画に関する件

②第 26 回書面理事会 2025 年 2 月 18 日

議案 1. 臨時理事会の招集について

③第 26 回通常理事会 2025 年 3 月 11 日

議案 1. 2025 年度事業計画及び予算書等の承認の件

議案 2. 特定費用準備資金等の保有に関する承認の件

議案 3. 役員賠償責任保険 (D&O 保険) の契約の件

○上記の理事会 (書面理事会を含む) に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(3) 常勤理事会の開催

定款第 41 条第 2 項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月 2 回 (原則)、常勤の理事 4 名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付しました。

4. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

北の丸科学技術振興会会員に対し財団の活動報告を行うことにより、既存の 58 会員を維持し、新規に 2 会員を獲得しました。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

北の丸科学技術振興会の既存会員を除いた13の外部企業・団体に対し、将来の連携活動を想定した関係作りを行いました。

5. 組織内の活動

(1) 各部との事業連携・人材育成

財団役職員のハラスメントに対する理解を深め、安心して働ける職場環境を築くことを目的として、職場のハラスメント研修を実施しました。

6. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動として、プレスリリースの配信、広報誌「JSF TODAY」の発行、SNSやメール配信を行いました。

(1) プレスリリースの配信

- ① 青少年のための生物学コンテスト「日本生物学オリンピック 2024」の参加申込を開始（4月）
- ② 青少年のための科学の祭典 2024 全国大会 7月27日（土）、28日（日）東京・科学技術館で開催（7月）
- ③ ボーイング STEM プログラム in ジャパン～シアトル航空博物館がやってくる～（9月）
- ④ 未来がここにある！「GUNDAM NEXT FUTURE SCIENCE 展～未来の豊かな暮らしのために～」開催決定！（9月）
- ⑤ かがく・夢・あそび キッズ・フロンティア・ワークショップ【秋田】（10月）
- ⑥ 2024年度「放射線教材コンテスト」及び「放射線授業事例コンテスト」受賞作品の決定について（12月）
- ⑦ キッズ・フロンティア・ワークショップ「カラーコピー機の秘密をさぐれ！」（1月）
- ⑧ 2025年2月17日、科学技術館5階に、新展示「フューチャー〈クオントム・ワールド〉」が誕生します！（2月）
- ⑨ 科学的視点で紹介！「もっと知ろう！消防火災展」（3月）

(2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を発行しました。

- ① No. 172 「SDGs と科学技術教育」（4月発行）
- ② No. 173 「多世代交流ミュージアム」（7月発行）
- ③ No. 174 「パートナーシップ・パワー！」（10月発行）
- ④ No. 175 「宇宙世紀のサイエンス」（1月発行）

(3) SNS やメール配信等による情報発信の充実

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増

進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の新着情報を X(旧 Twitter)などの SNS やホームページ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信しました。

また、SNS 企画として「今日は何の日」企画(通年)、「科学技術館で 2525 をシェアしよう」キャンペーン(1~2 月※Instagram)を実施しました。

①X(旧 Twitter)による情報発信

4 月 1 日から 3 月 31 日まで 264 本の投稿により、フォロワー数は前年度から 1,345 増の 6,357(4 月 1 日現在)

②Instagramによる情報発信

4 月 1 日から 3 月 31 日まで 210 本の投稿により、フォロワー数は前年度から 2,165 増の 4,821(4 月 1 日現在)

③メールマガジンによる情報発信

822 号(4 月 17 日)から 833 号(3 月 19 日)まで 12 号配信。配信数 10,796 通(3 月 19 日現在)

(4) 科学技術館の新規顧客層拡大

科学技術館の新規団体見学の誘致を目的としたダイレクトメールを、未就学児・学童・養護学校団体向け(7 月、256 団体)、旅行代理店向け(8 月、65 社)に送付しました。

また、前年度から継続するシニア世代向け PR の一環としてチラシ配布を実施(4~5 月)しました。

7. 新型コロナウイルス等感染症対策について

新型コロナウイルス感染症は収束したが、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を、適宜行いました。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館である様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底しました。

[事業活動]

I. 科学技術振興事業

1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

1－1. 科学技術館の運営事業

■入館者状況

今年度は、年間を通じて臨時休館などではなく、入館者数は約 46.3 万人となった。年間を通じて個人有料入館者数の増加が顕著であったこと、例年に比べ 1 月から 3 月の入館者数が多かったこともあり、2023 年度比 118.6%の入館者数となった。

<入館者状況比較>

	2024 年度(人)	2023 年度(人)	2024／2023 (%)
4 月	23,365	19,400	120.4
5 月	37,673	30,616	123.1
6 月	61,566	41,542	148.2
7 月	58,107	45,692	127.2
8 月	43,634	38,280	114.0
9 月	31,405	23,730	132.3
10 月	30,497	23,639	129.0
11 月	38,408	39,482	97.3
12 月	34,110	35,861	95.1
1 月	31,520	24,199	130.3
2 月	41,903	38,686	108.3
3 月	31,337	29,591	105.9
累計	463,525	390,718	118.6

ステークホルダーに、科学技術館を魅力ある施設と捉えていただくためには、その特徴をより鮮明化し他施設と差別化を図り、結果として科学技術館の入館者増(入館料収入増)に繋げることが重要課題であるため、昨年度に引き続き展示の新設・更新・開発やイベント開催などの「(1)科学技術館の直接的な運営に対する取り組み」、および既存のコンテンツやノウハウを提供する「(2)他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み」の科学技術館の活動の二つの面を明確にして運営に取り組んだ。

(1) 科学技術館の直接的な運営に対する取り組み

①館内イベントの開催増

- 1) 館内イベントの開催は、既存の持込・共催イベントの実施、また新規イベントも多数開催し、入館者増につなげる取り組みを実施した。
 - 2) これまでイベント実施が少なかった、10月、2月、3月にもイベントを実施することを計画し、入館者増につなげる取り組みを実施した。
- ※館内におけるイベント開催実施の実績については、(P8、「1ー2. 特別展・イベント等の開催」内を参照)

②既存施設の積極的な貸出

- 1) 館内イベントの開催増に向け、イベント会場の提供を積極的に提案し館内施設の有効活用を促進
 - ・館内で実施するイベントの開催増について、打診案件に対して積極的な提案を実施した。
 - ・展示棟3階I室は、臨時休憩室として活用していたが、以前は当部の事務室であった。これまで事務室は展示棟4階E室であったが、3階I室より面積が広い4階E室で様々なイベントが開催できることを目的に、事務室を3階I室へ2024年9月末に移転し、イベント開催会場として確保し、下半期にイベント開催の実績を作った。
- 2) 2023年度より科学技術館のwebサイトにて、施設活用に関する案内、館内でイベントを実施するための案内について新しく情報発信を開始したことによる問合せに対し、利用促進の調整・案内などを随時行った。

利用実績

- 7月 1日 実験工房
- 7月 2日 屋上
- 7月19日 実験工房
- 10月10日 屋上
- 2月 6日 屋上
- 2月25日 全館

③入館者来館傾向の分析と団体利用誘致

1) 入館者来館傾向の分析

4月から7月までの団体入館者数が、2023年度と比較し大幅に増加した。新学習指導要領での社会科内「公民」分野学習の時期変更に伴う施設見学時期変更の影響が、2023年度以上に出ていることがうかがえる。コロナ禍前は秋口の団体入館者数が多かったが、今年度はより4月から7月までの団体入館者数増が顕著であった。またその反動により、9月から12月までの団体入館者数の落ち込みを想定していたが、実績は想定より少なく、9月、10月は2023年度以上の団体入館者数となった。

科学技術館ウェブサイトやSNSなどにより、各種展示やイベントの開催情報を随時発信し個人来

館者の誘致も図った。

2) 団体来館利用の分析

約1年に渡り、入館者の傾向や団体来館利用のエリアごとの実績分析を行い、団体利用の多い自治体の洗い出しなどを実施した。直近の6年間と比較し、団体利用は今年度が一番多かったなど実績も確認できた。

また、3月末に関東近県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県)の小・中・高校のべ7,946箇所にて団体利用誘致の広報資料の送付を実施した。

④ 出展誘致・展示更新

新展示室の設置や、展示のリニューアル、オリジナル展示の設置など、下記のように取り組んだ。

1) 新展示室の設置

5階C室に、一般財団法人日本宝くじ協会による助成と、日本電信電話株式会社との共同による、量子技術に関する展示、「フューチャー〈クオオンタム ワールド〉」を新設し、2月17日より展示室を公開した。

2) 展示室・産業センター出展のリニューアル

- ・日本製菓工業協会出展の3階F室「クスリウム」展示室を部分リニューアルし、部屋内に新しく「マイクロアドベンチャー」、「創薬パズル」、「フォトスポット」の展示を新設し、3月21日に公開した。
- ・3階G棟(回廊廻り)に設置されていた、一般財団法人カーボンフロンティア機構による出展である「石炭ってなあに?」の展示を改修し、新しく「石炭って知ってる?」として3月29日に完成し、4月1日より正式公開とする。

3) 新展示物の設置

5階G棟(回廊廻り)に、株式会社インターマン協力による、「空中ディスプレイ」を設置し、10月24日より公開した。

4) オリジナルハンズオン新展示の設置と休止展示の再開

- ・技術グループ製作の錯覚系オリジナルハンズオン新展示「rotating gray step」「mach bands」「horses tail」の3点を、7月30日より4階G棟(回廊廻り)で公開した。
- ・2022年6月から温度調節器の不具合で休止していた5階G室「オリエンテーリング」展示室の「アツメタイ」を、2重の安全対策を施す改修を行い、12月18日に展示を再開した。
- ・技術グループ製作の錯視系オリジナルハンズオン新展示「追いかける絵」を、1月31日より4階B室「シンラドーム」前室にて公開した。

(2) 他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み

① 他施設の展示設計業務等の受注

- 1) 2024年1月から着手した、栃木県立子ども総合博物館のリニューアルに伴う監修業務を実施した。館内展示物のグラフィック、解説、その他運用方法などについて精査し助言した。
- 2) 3月に、国立公文書館の新館構想に関する支援を行った。

1－2. 特別展・イベント等の開催

夏休み春休みなどの学校休暇期間以外にも、さまざまなテーマの特別展、自主イベント、企業・団体との連携イベント、共催イベント、自主企画イベントなどを開催した。

(1) 特別展・企画展開催

春休みミニイベント「もっと知ろう！消防火災展」 3月24日～30日

(2) イベント開催

①企業・団体との連携イベント

1) 「夢・化学-21」委員会

- ・『なぜなに？かがく実験教室「不思議なコップを作ろう」』 5月18日
- ・『なぜなに？かがく実験教室「光の不思議!？」』 7月6日
- ・『なぜなに？かがく実験教室「抽出の原理を知ろう」』 9月7日
- ・『なぜなに？かがく実験教室「こおりつり(氷釣り)をしよう」』 11月9日
- ・『なぜなに？かがく実験教室「身の周りのものを利用して電池をつくろう!」』 1月18日
- ・『なぜなに？かがく実験教室「植物の血管をみてみよう!」』 3月8日

2) 旅するワークショップ LiKKA

「サンゴについて楽しく学ぶワークショップ(工作)」 8月12日～17日、23日、25日

「美ら海キャニスターを作ろう ～サンゴについて楽しく学ぶワークショップ～」

2月8日、9日、11日、22日～24日

3) 公益財団法人自動車リサイクル促進センター

『第7回「クルマのリサイクル」作品コンクール入賞作品展』 5月30日～6月30日

4) 一般社団法人日本鉄鋼連盟

「鉄はくるくるリサイクル 遊ば～触ろ～学ば～ 鉄学フェス!」 6月22日

5) アース製薬株式会社

「蚊のひみつを知ろう!」 6月28日～30日

「おくちケアのススメ ～セルフケアで健康な笑顔を～」 11月1日～3日

6) 一般社団法人電波教育協会

「科学技術館でモールス打鍵体験 ～SOSを打ってみよう～」 8月3日、4日

7) 水の週間実行委員会

「水のワークショップ・展示会」 8月5日

8) コーエー企画株式会社

『Chim-Don ひろば 「ミサンガづくり／レジンキーホルダー」』 8月11日、18日

『Chim-Don ひろば 「センサリーボトルをつくろう!」』 9月8日

『Chim-Don ひろば 「親子で楽しむ♪はじめてのサイエンスあそびVol.1：ふうせん電話」』

10月6日

- 『Chim-Don ひろば「カリンバを作ろう！」』 11月10日
- 『Chim-Don ひろば「センサリーボトル Xmas バージョン」』 12月15日
- 『Chim-Don ひろば「レジン・イニシャルキーホルダー作り」』 1月5日
- 『Chim-Don ひろば「フェイクスイーツキーホルダー作り」』 2月16日
- 『Chim-Don ひろば だれでも工作「フェイクスイーツ木製クリップ」』 2月16日
- 『Chim-Don ひろば だれでも工作「パーツもりもりクリップ磁石」』 3月2日
- 『Chim-Don ひろば「モザイクアートでマグネットミニフォトフレームをつくろう」』 3月2日
- 9) 一般財団法人日本自転車普及協会 自転車文化センター
「自転車文化センター夏休み科学教室」 8月13日
- 10) 日本銅センター/日本鋳業協会/エネルギー・金属鉱物資源機構
『「銅の日」イベント』 8月13日
- 11) 「つながるかたち」展実行委員会
「CONNECTING ARTIFACTS つながるかたち展 04」 10月5日～27日
『「CONNECTING ARTIFACTS つながるかたち展 04」開催記念特別トークイベント
野老朝雄 x 舘知宏 『個と群と律』』 10月20日
『「CONNECTING ARTIFACTS つながるかたち展 04」開催記念特別ワークショップ』
10月27日
- 12) 一般社団法人日本パズル協会
「東京パズルデー2024 in 科学技術館」 11月2日、3日
- 13) 日本プラ寝たリウム学会
『「寝良導夢(シンラドーム) 科学ライブショー(ユニバース)＜熟睡版?!＞
～熟睡プラ寝たリウム～」』 11月23日
- 14) 全国児童生徒地図作品展連絡協議会・国土交通省国土地理院
「第28回全国児童生徒地図優秀作品展」 1月16日～20日
- 15) 日本製薬工業協会
『春休みはくすりの研究者を目指そう！体験型イベント「製薬協 クスリウム研究室」』
3月21日～23日

②共催イベント

- 1) 株式会社講談社
『科学の本「ブルーボックス」を親子で楽しもう！』 7月22日～30日
- 2) マブチモーター株式会社
『実験教室「モーターのしくみ ～モーターが回るナゾにせまる!～」』 7月23日
- 3) クリーン・コール・デー実行委員会
「夏休み石炭実験教室」 8月6日、7日

4) 株式会社日本バイオプラスチック研究所

「環境にやさしい素材 バイオプラスチックとは」 9月16日

5) STEAMS LAB JAPAN 株式会社

「米国先端教育校 Brightworks 創設者が開発した発明家キット

Tinkering Labs の体験会&特別講演会」 8月10日

「Tinkering 発明家キット 英語でチャレンジワークショップ」 2月9日

6) 一般社団法人日本自動車工業会

「ワケエコキッズワークショップ ～クルマであそぼう～」 2月14日

7) 三菱電機株式会社

「電気自動車のモーターが回るしくみを体験しよう！」 3月29日、30日

③自主企画イベント

1) 『身のまわりの「使い捨て」をへらそう！～科学技術館とウォータースタンドのとりくみ～』

7月21日

2) 「モーターのしくみ ～モーターが回るナゾにせまる!～」 7月26日～8月18日

3) 『鉄の丸公園1丁目』クイズラリー』 8月6日、7日

4) 「ペーパークラフトで遊ぼう！」 9月15日、16日

5) 「まわして遊ぼう！ くるくるシャボン玉」 9月21日～23日

6) 「数と図形を体感! ～マスレチック・ランド展～」 2月10日～3月18日

7) 「科学技術館で2525をシェアしよう！」 2月22日～24日

8) 『ミニパネル展示「サクラ・ラボ」』 3月13日～4月22日

9) 「さくらアート de ガラス小物をつくろう」 3月20日、21日

④既存施設(回廊廻り)を活用したイベント

1) 「キャンドル・オルゴール工作」 4月1日から年間延べ101日開催

1-3. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積されたコンテンツを他施設などに貸出し、運営支援を行う活動を実施した。

(1) 巡回展示物の貸出し

①10テーマある巡回展示物の中から、「スポーツを科学する」、「科学捜査展」、「科学捜査展 #SEASON2」、の3つのテーマの展示物を、4ヶ所の施設に貸出しを行った。

②1月19日、ぐんまこどもの国児童会館にて、「空気と音」をテーマにしたサイエンスショーを実施した。施設側で応募し、事前予約した参加者約300名が参加した。

1－4．他館の運営

科学技術館の運営経験と実績を基に、埼玉県指定管理者として所沢航空発祥記念館の運営管理を担い、科学及び技術の普及啓発と人材育成に貢献する事業を実施した。

所沢航空発祥記念館の運営（埼玉县委託事業）

わが国初の飛行場として1911(明治44)年に開設された「所沢飛行場」は、現在埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっている。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により1993(平成5)年に同公園内に建設された。この館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり展示設計・施工監理等を担い、その後開館後31年間運営に携わってきた。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し、指定管理者として運営にあっている。

■入館者状況

2024年度の入館者数、前年度との比較

	入館者数	うち大型映像館
2024年度	195,919人	34,158人
2023年度	184,283人	38,538人
前年度比	106.3%	88.6%

(1) 展示館の運営

- ①安全を第一に、日常的な入館者対応及び展示解説・実演等を行なうとともに、展示の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施した。
- ②開館から31年経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行った。
- ③埼玉県との連携のもと、県による設備交換工事計画の実施に協働した。
- ④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行うとともに、特別展において資料の活用を行った。

(2) 大型映像館の運営

- ①展示館と並ぶ所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一とした日常の運営活動を滞りなく実施した。なお、上映機器故障の為、10月27日から11月29日まで臨時休館した。
- ②上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマを中心に、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も幅広く組み入れ、公園のビジターセンター的役割も果たした。
- ③大型映像館を利用したことのない来館者にも訴求する活動として、当財団他部門事業と連携した科学技術映像祭入選作品上映会など無料上映会を適時開催した。
- ④大型映像館でも上映できる非劇場向け映画のうち、航空機が登場する作品を中心に上映を行う新企

画「たまには映画 観に行かない？」を11月を除き毎月1回開催した。

⑤所沢市による「フランス航空教育団と日仏交流」次の100年事業で制作された短編映画「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」を市と連携して大型映像館にて無料上映した。

<第1期>

1)-1「ディノ・ダナ 凶鑑から出たティラノサウルス」 開催日：4月 1日～6月30日

1)-2「プラネットパワー 近未来へとはばたく翼」 開催日：4月 1日～6月30日

1)-3「名探偵コナン-灼熱の銀河鉄道-」 開催日：4月23日～5月 6日

1)-4「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」

※「天までとどけ」との同時上映 開催日：4月23日～5月 6日

1)-5「天までとどけ」

※「空をめざして」との同時上映 開催日：4月23日～5月 6日

<第2期>

2)-1「ゲゲゲの鬼太郎 河童のテラフォーミング」 開催日：7月 2日～9月29日

2)-2「SPACE 開かれた宇宙への旅」 開催日：7月2日～21日、9月1日～29日

2)-3「クレヨンしんちゃん 星空と学校の七不思議だぞ」 開催日：7月23日～8月31日

2)-4「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」 開催日：8月19日～31日

2)-5「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」

※「天までとどけ」との同時上映 開催日：7月23日～8月18日

2)-6「天までとどけ」

※「空をめざして」との同時上映 開催日：7月23日～8月18日

<第3期>

3)-1「かいけつゾロリ ラララ♪スターたんじょう」 開催日：10月 1日～12月28日

3)-2「ディノグライダー」 開催日：10月 1日～11月30日
12月14日～28日

3)-3「コズミックフロント 銀河鉄道の夜 朗読会」 開催日：12月01日～28日

3)-4「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」 開催日：12月 1日～13日

<第4期>

4)-1「ごん」 開催日：1月 2日～3月31日

4)-2「スペーステクノロジー ～宇宙から地球へ～」 開催日：1月 2日～3月14日

4)-3「しまじろうとおおきなき」 開催日：3月15日～31日

4)-4「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」

※「天までとどけ」との同時上映 開催日：3月15日～31日

4)-5「天までとどけ」

※「空をめざして」との同時上映 開催日：3月15日～31日

<たまには映画 観に行かない？>

- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 5)-1 「ハドソン川の奇跡」 | 開催日： 4 月 13 日、 5 月 11 日 |
| 5)-2 「グランド・ジャーニー」 | 開催日： 6 月 8 日、 7 月 13 日 |
| 5)-3 「リトルプリンス 星の王子さまと私」 | 開催日： 8 月 10 日、 9 月 14 日、 10 月 12 日 |
| 5)-4 「トップガンマーヴェリック」 | 開催日： 12 月 14 日、 1 月 11 日、 2 月 8 日 |
| 5)-5 「ひつじのショーン UFO フィーバー！」 | 開催日： 3 月 8 日 |

※11 月の上映は上映機器故障のため中止した

<市との連携による短編映画の無料上映>

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 6)-1 「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」 | 開催日： 4 月 7 日(空フェス無料上映) |
| | 8 月 19 日～31 日、12 月 1 日～28 日 |

<その他 特別上映>

2025 年新年お年玉上映会

- | | |
|--------------------|------------------|
| 7)-1 「オーロラを見た恐竜たち」 | 開催日： 1 月 2 日、3 日 |
|--------------------|------------------|

第 65 回科学技術映像祭入選作品無料上映会

- | | |
|--------------------------------------|--------------|
| 8)-1 「なぜ水星へ行くのは最も難しいのか？全惑星へのアクセス時間比較 | 開催日： 9 月 1 日 |
|--------------------------------------|--------------|

- | | |
|---|--|
| 8)-2 「居間からサイエンス～地球誕生の謎に迫る！地下 2600 キロの大発見」 | |
|---|--|

開催日： 9 月 7 日、8 日

- | | |
|---|--|
| 8)-3 「NHK スペシャル 映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間 前編」 | |
|---|--|

開催日： 9 月 14 日～16 日

- | | |
|---|--|
| 8)-4 「テレメンタリー2023 プラスチックの行方 ～「水の国」からの警鐘～」 | |
|---|--|

開催日： 9 月 21 日～23 日

- | | |
|---|--|
| 8)-5 「ダーウィンが来た！ 生きものの不思議を解き明かせ！子ども研究者スペシャル」 | |
|---|--|

開催日： 9 月 28 日、29 日

⑥大型映像館連動イベント

大型映像館と連動させたイベントとして、羽田空港制限エリア特別バスツアーを 11 月 2 日に開催した。

(3) 特別展等の開催

- ①記念館の所蔵資料を中心に、1903 年に生まれ生誕 120 周年を迎える零戦設計者の堀越二郎に関わる特別展「生誕 120 周年&航空 120 周年 堀越二郎回顧展～零戦設計者・堀越二郎の航空の道に捧げた生涯を辿ります～」を展示室にて開催した。 開催日： 1 月 18 日～ 6 月 23 日

- ②ファミリー向けのイベントとして、夏休み特別展「所沢の空に飛ばそう！デジタル飛行機ぬりえ」を開催した。 開催日： 7 月 19 日～ 9 月 1 日

- ③記念館の所蔵資料を中心に、所沢飛行場の格納庫で作られた「雄飛号飛行船誕生 110 周年展」を展示室にて開催した。 開催日： 10 月 25 日～ 2025 年 4 月 6 日

④記念館の収蔵資料を用いてミニ企画展「烈風初飛行 80 周年展」を開催した。

開催日： 7 月 19 日～ 9 月 29 日

⑤航空に関する分野の企業や教育機関より協力を得て、計画・実施を通して、ステークホルダーとの関係強化を図った。

(4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底した。

②利用者にとってのバリア低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めた。

③来館者の安全を最優先するために必要な対策は適時実施することをはじめ、各種サイン掲示や巡視等による事故の未然防止、防犯カメラ設置、警備員定期巡回、機械警備等、保安と安全管理に努めた。

④年 2 回の全体消防訓練のほか、計画の見直し改善を繰返すとともに最新の情報を共有した小規模の防災・消防訓練を随時実施した。

(5) 連携活動

①埼玉県、及び所沢市など周辺の自治体や関係団体・関連企業等ステークホルダーとの連携活動を積極的に実施した。

②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図った。

③国内の航空系博物館等 6 団体と連携して、航空科学博物館が開催(12 月 15 日)したトークショー「素晴らしきヒコーキ写真の世界」のサテライト中継、あいち航空ミュージアムが開催(3 月 22 日)した講話「二宮忠八の偉業」のサテライト中継を行った。

(6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋げた。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には固定休館日である月曜日も開館とする等、利用機会の拡大と利便性向上を図った。

(7) 広報活動

①余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力して園内広報を実施した。

②来館者はウェブページによる事前の情報収集を行う割合が高いことを踏まえ、記念館ウェブページを積極的に活用し、館の基本情報やアクセス情報、そして展示館及び大型映像館の案内情報や最新情報の発信に努めた。

③県内・市内からの利用者が多くを占める施設であることから、市政記者クラブを通じたプレスリリ

ースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のコミュニティFMラジオと積極的に連携しPRを図った。

- ④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、国内の航空系博物館とも連携し、広報物の相互配架を行った。

(8) 普及啓発活動

①飛行機工作教室、公開講座の開催

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空機及び航空分野への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室を開催した。

工作教室数：11回／年、延べ参加者数：257人

航空に関する専門家等をお招きして、一般向けの公開講座を開催した。

「次世代航空技術と未来の航空機」 12月7日、参加者数：37名

「国際線・国内線パイロットの仕事とその魅力」 3月16日、参加者数：46名

②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

当財団の持つノウハウを活かして、小学1年から6年生を対象とした「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた工作・自然観察など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室として実施することにより、青少年に航空や自然科学に興味を持ってもらう機会を提供した。

開催教室数：25回／年、延べ参加者数：386人

③ワークショップコーナーの運営

科学技術館におけるノウハウを活用して、実演、実験、工作や体験をもとに来館者とのコミュニケーションを軸として解りやすく解説するワークショップコーナーを運営した。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的に開催し、加えて既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して広く科学・技術への興味・関心を促した。

④重ね押しスタンプラリーの開催

展示館内を周りながら、飛行機のオリジナルスタンプを5個押して、図柄を完成させるスタンプラリーを開催した。なお、裏面には「日本の航空発祥の地 所沢」の紹介を入れてPRした。

開催日：6月15日～3月31日

(9) ボランティア活動の充実

記念館の運営を支援するボランティアの活動の場として、飛行機工作教室、YS-11・格納庫の特別公開、展示航空機等の保守・メンテナンス活動等を実施した。ボランティアスタッフの豊富な経験と有用な知識を来館者に向けて提供する機会を設けることにより、航空への興味・関心に繋ぐとともに地域との連携を深めた。

(10) ミュージアムショップ及びレストランの運営

①ミュージアムショップ

ミュージアムショップ店内は狭小であるため密を避けるため、店舗前のエントランスロビーに商品棚を展開し運営した。展示機人気投票イベントと関連したオリジナル商品の開発・販売を行った。

②カフェレストラン

通常の店内利用での営業及びテイクアウトも進め、また季節限定メニューを取り入れるなど、利用者サービスの向上に努めた。

(11) その他の活動

①開館以来 31 年を経過したことで老朽化等が課題となる常設展示及び館施設・設備について、日常的業務では修繕等を行い品質の維持向上を図った。また、埼玉県による「展示リニューアル計画」に協働し推進した。

②埼玉県による「施設の長寿命化計画」に協働し推進した。

③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、「空フェス」イベント等の共同開催を実施した。

1－5. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援事業

科学技術館の運営ノウハウを基に、企画開発業務を実施した。

(1) 企画開発業務

①2024 年 1 月から着手した、栃木県立子ども総合博物館のリニューアルに伴う監修業務を実施した。

館内展示物のグラフィック、解説、その他運用方法などについて精査し助言した。

②3 月に国立公文書館の新館構想に関する支援を行った。

2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

2－1. サイエンス友の会の活動

生物・物理(技術)・化学・地学・天体気象をテーマにした、小学生を対象とした実験イベントを中心に、未就学児と保護者を対象にした低年齢向けや中学生から大人向けといった年齢層を限定したイベント、企業・団体・大学の協力によるゲストイベントや施設見学会などの各種プログラムを、4 歳～大人までのメンバーを優先参加として、4 月～翌年 3 月にわたって計 61 回開催し、延べ 1,041 人が参加した。

なお、2024年度の年間パスポートの加入総数大人526名、中高15名、子ども568名の計1,216名であった。イベント応募総数は、1,307件だった。

2-2. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

① 青少年のための科学の祭典全国大会（独立行政法人国立青少年教育振興機構助成事業）

理科実験や工作の実体験を通して、青少年の科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を増進させることを目的とした「青少年のための科学の祭典2024全国大会」を7月27日、28日に開催した。

青少年のための科学の祭典2024全国大会

会 期：2024年7月27日(土)、28日(日)

会 場：科学技術館 1階 催事場

出展数：60出展、来場者数(延べ)：12,783人

② 青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する59の大会が予定されていたが、会場が確保できないこと等により4大会が中止となり、55大会の開催、参加者数139,876人となった。

(2) 少年少女創造性育成事業業務（公益財団法人市村清新技术財団 委託事業）

公益財団法人市村清新技术財団主催の「第55回市村アイデア賞」の表彰式を11月15日に科学技術館で開催するとともに、11月15日から12月1日に入選したアイデアの作品展示を行った。

また、小中学生を対象にカラーコピー機の仕組みや原理の解説と実機の分解を行う「キッズ・フロンティア・ワークショップ」を12月14日、15日に秋田県総合保険センター(秋田県秋田市)で、2025年3月8日、9日に科学技術館で開催した。

(3) STEM/STEAM 教育プログラムの実施

① STEM 教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができる

STEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育に基づいたショー・ワークショップなどのSTEM

プログラム「ボーイング STEM プログラム in ジャパン ～シアトル航空博物館がやってくる～」を11月9日に科学技術館で開催した。

科学技術館 ボーイング STEM プログラム in ジャパン

11月9日	フライング GIZMO ショー（協力：シアトル航空博物館）
	宇宙服を作ろう（協力：シアトル航空博物館）
	JAL STEM SCHOOL（協力：日本航空株式会社）
	未来にはばたけ ANA の航空教室（協力：ANA 総合研究所、成田国際空港株式会社）

(4) 「地球環境のための安全・安心で豊かな生活に向けた科学技術」に関する特別展の開催
(公益財団法人 JKA 補助事業)

地球環境問題への関心を高め、安全で安心できる豊かな未来(生活)を創造する夢と可能性を伝えるため、『機動戦士ガンダム』の世界感を題材にした特別展を企画し、社会問題への理解と興味喚起の拡張、増進を図り、課題解決に向けた人材の育成と更なる科学技術の普及、発展に貢献することを目的として開催した。期間中、17,500 名の方にご来場いただいた。

特別展の概要

期 間：2024 年 10 月 3 日(木)～22 日(火) ※休館日：10 月 9 日、16 日

場 所：科学技術館（東京都千代田区北の丸公園）

2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピック 2024 の開催、第 35 回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

(国立研究開発法人 科学技術振興機構支援事業)

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動であり、国内大会「日本生物学オリンピック 2024」を開催するとともに、国際大会「第 35 回国際生物学オリンピック」への日本代表派遣を行った。

①日本生物学オリンピック 2024 の開催

「日本生物学オリンピック 2024」の参加申込受付(Web)を 5 月 1 日から 31 日まで実施し、予選を 7 月 14 日にオンライン(Computer Based Testing：CBT)で実施した。本選は、8 月 25 日から 28 日に熊本大学黒髪南地区で開催した。また、日本代表候補者 12 名を対象とした冬期特別セミナーを 12 月 25 日から 26 日に東京大学駒場キャンパスで実施するとともに、代表選抜試験を 2025 年 3 月 16 日に科学技術館で実施し、成績優秀者から 2025 年にフィリピンで開催される第 36 回国際生物学オリンピック日本代表 4 名と次点者 2 名を選抜した。

5 月 1 日～31 日	参加申込受付(Web)
7 月 14 日	予選をオンライン(CBT)で実施(参加者：1,812 名)
8 月 25 日～28 日	本選を熊本大学黒髪南地区で実施(参加者：予選上位者 80 名)
12 月 25 日、26 日	日本代表候補者 冬期特別セミナー(参加者：代表候補者 12 名)
2025 年 3 月 16 日	代表選抜試験(参加者：代表候補者 12 名)

②第 35 回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

第 35 回国際生物学オリンピック 2024 カザフスタン大会(IBO2024)が 7 月 7 日から 14 日にカザフスタン共和国のアスタナで開催され、81 か国・地域から 295 名が参加した。日本からは、2023 年度に開催された日本生物学オリンピック 2023 で選抜された日本代表 4 名が参加し、銀メダル 4 を獲

得した。

3月28日～30日	第1回 特別教育をお茶の水女子大学湾岸生物教育センター(千葉県館山市)で実施
4月3日	第35回 国際生物学オリンピック日本代表決定のプレスリリースを実施
5月4日、5日	第2回 特別教育をオンラインで実施
6月1日、2日	第3回 特別教育を科学技術館で実施
7月7日～14日	第35回 国際生物学オリンピックに日本代表4名が参加(結果銀4)

2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催(公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業)

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員会の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動にすぐに役立つ実践的な理科実験の講習会「教員のための理科実験スキルアップ講座 ～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～」を、8月と11月の2回、科学技術館の実験工房で開催した。

8月17日	10:30～12:15	<地学分野> (参加者16名) 「地震 ～正しく備える～」
	13:30～15:15	<物理分野> (参加者15名) 「落下運動」の落とし穴」
8月18日	10:30～12:15	<生物分野> (参加者16名) 「遺伝物質DNAをみる」
	13:30～15:15	<化学分野> (参加者16名) 「化学分野の利用と藍藻」
11月17日	10:30～12:15	<生物分野> (参加者14名) 「水中の小さな生物の採集方法、観察、分類」
	13:30～15:15	<化学分野> (参加者14名) 「実験技能の基礎知識」
11月24日	10:30～12:15	<地学分野> (参加者17名) 「身近で地質の教材開発」
	13:30～15:15	<物理分野> (参加者14名) 「磁石、磁界、電磁誘導」の落とし穴」

2-5. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第65回科学技術映像祭の開催

「第65回科学技術映像祭」の「自然・暮らし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に対して31機関から56作品が出品され、内閣総理大臣賞に「NHKスペシャル 映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間 前編」(企画・製作:日本放送協会)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞1作品、つくば科学万博記念財団理事長賞1作品、新技術振興渡辺記念会理事長賞

また、科学技術週間の一環として、4月19日に表彰状授与式・受賞記念スピーチを科学技術館において開催した。入選作品は、科学技術館及び全国の科学館等(全18館)において上映会を行った。

科学技術映像祭運営委員会において検討を重ねた結果、第 66 回映像祭については、第 65 回までの開催方法を大幅に変更して行うことになった。応募の対象に新たに「学生部門」を設け、一般部門の 2 部門にし、それぞれ短編とそれ以外の枠で募集を行うこととした。応募対象の作品は、これまでのカレンダー一年内制作のものから、前年度内のものにし募集・審査を行うなど、事業を年度単位のものに変更した。これにより、科学技術週間を含む 4 月に募集を開始し、審査を経て、子どもたちの夏休み期間に合わせ表彰式を行うスケジュールで準備を行うこととなった。学生部門への応募を後押しするために、映像祭のホームページをリニューアルする作業を行った。掲載するコンテンツとして、学生向けに、著作権や肖像権など動画制作にあたって守るべき基本点なルールのガイドラインを作成した。さらに、科学技術映像祭実行委員会委員長、及び第 65 回の受賞者ほかの協力を得て、映像祭のプロモーション動画を作成した。この動画については、ホームページのほか、YouTube に科学技術映像祭チャンネルを設けアップした。映像関係の教育課程を有する大学や高等専門学校、関係団体に、新設した学生部門について、対面あるいはメール、関係資料の送付等を通じて周知を行った。3 月 2 日には、外部講師をお招きして第 66 回映像祭の説明会をデジタルハリウッド大学で開催した。これら第 66 回映像祭の準備に向けた活動は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会・共通目的基金の助成(令和 6 年度)を受けて行った。

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図った。

文部科学省から2024年度の「放射線に関する教職員研修及び出前授業実施事業」を受託し、学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修と児童生徒等を対象とした出前授業を実施した。

放射線教育を実施する教員を支援するとともに、児童生徒に対して放射線に関する理解を深めるための情報を提供する放射線教育支援 Web サイト「らでい」を運用した。

7月27日、28日に開催された「青少年のための科学の祭典2024 全国大会」においてエネルギー・放射線に関するブース出展を行うとともに、科学の祭典の地方大会や各地の科学館等においてエネルギー・放射線に関する展示を行う。

ギー・放射線教室を8回実施した。

(4) 放射線教材コンテストの実施

放射線について学んでいる大学生、大学院生等を対象に、児童生徒が学ぶための新しい教材を募集する「2024年度放射線教材コンテスト」(応募校数:16校、応募作品数:213件)を実施した。

(5) 放射線授業事例コンテストの実施

小・中・高等学校の教育関係者を対象に、放射線教育を検討している教員の参考となる企画、実践事例、教材・教具の開発、学習指導案などの放射線授業事例を募集する「2024年度放射線授業事例コンテスト」(応募作品数:188件)を実施した。

(6) 福島に学ぶプロジェクトの実施

福島県の小・中・高(高専)等での放射線教育の実践活動を支援し、実践事例を放射線教育支援サイト“らでい”にて情報発信する「2024年度放射線教育実践・情報発信事業 福島に学ぶプロジェクト」(応募校数:2校)を実施した。

(7) 放射線教育発表会の実施

放射線教育に取り組んでいる方々を対象に、今後の放射線教育に関する情報交換と研修の機会として、12月27日に科学技術館で「2024年度放射線教育発表会」(参加人数:179名)を実施した。内容は、①放射線教材コンテスト及び放射線授業事例コンテストの受賞作品の演示、②福島に学ぶプロジェクトの応募校の先生方による、「福島県での放射線教育に学ぶ」をテーマとしたパネルディスカッション、の2部構成とした。

(8) 若手教員を対象とした理科実験研修会の実施

在職10年以内の若手教員を対象に、理科の教科書に掲載されている「定番実験」を安全・安心して実験できるノウハウを研修する「2024年度 若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」(参加教員:44名)を、8月20日、21日に科学技術館会議室及び実験工房で実施した。

3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業

7月27日、28日に科学技術館で開催された「青少年のための科学の祭典2024全国大会」の来場者を対象として、来場者の属性、来館のきっかけ、参加の印象、科学の祭典に対する印象、運営面の課題を知ることが目的として、アンケート調査をした。広報面で参考になる結果として、情報入手経路を分析したところ、チラシやポスターなど従来からの広報手法が根強い反面、インターネットサイトや科学技術館ホームページの割合も同程度に大きく、紙媒体・ネットメディアが混在し、経路の多様化が見られた。

また、主に広報面の課題を知ることが目的として、8月28日、及び、30日に、科学技術館の入館者を対象としたアンケート調査を実施した。この調査結果から、インターネットを情報入手経路とする来館者の比率が近年増加しており、今後はSNSを含むインターネットによる発信情報が来館者の情報源の柱の一つとして期待されていることが判明した。

Ⅱ. 情報システムの設計開発と運用サービス事業

実施した主な業務は次のとおりである。

1. 情報システムの設計開発

- (1) 学校法人産業能率大学
- (2) 株式会社イセトー
- (3) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
- (4) 株式会社電通総研
- (5) 一般社団法人電子情報技術産業協会
- (6) 株式会社電力計算センター
- (7) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館
- (8) 株式会社新三容
- (9) 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会
- (10) 株式会社 電力テクノシステムズ
- (11) 公益財団法人 日本書道教育学会

2. 情報システムの運用サービス

- (1) 学校法人産業能率大学
- (2) 株式会社イセトー
- (3) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
- (4) 中外製薬株式会社、オムロン株式会社
- (5) 通信教育団体
- (6) 職業訓練法人日本技能教育開発センター
- (7) 株式会社判例時報社
- (8) 一般財団法人電源地域振興センター
- (9) 公益財団法人 日本書道教育学会
- (10) 一般財団法人日本環境衛生センター
- (11) 一般財団法人 全国科学博物館振興財団

Ⅲ. 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベント他。地階のサイエンスホールは、週末を中心にエンターテインメント関連の各種イベント、平日は講演会、セミナー、研修会等に貸し出している。また、事務棟5階、6階の会

議室も貸し出している。当事業は、収益事業として運営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度、新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ解消され、年度後半から徐々に回復基調に乗せた。得意先を中心に各施設の日程調整を行い、顧客満足度を向上させることに繋げた。

■各会場利用件数

件数／年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
催事場利用件数	36	51	43	58
ホール利用件数	93	106	91	99
会議室利用件数	136	203	190	200

IV. 補助を得て実施する事業

2024 年度は実施なし

V. 助成を得て実施する事業

1. 「火災から身を守るための防災・技術を紹介する」巡回型展示物の制作

(公益財団法人日本財団)

2023 年度から引き続き公益財団法人日本財団の助成金を活用し、『火災から身を守るための防災・技術を紹介する』巡回型展示物の制作」をテーマに、火災や消防に関する 4 つのストーリー体験ができる、シミュレーション体験展示物を制作した。2023 年度助成事業で制作した 25 点の展示物と合わせて、巡回型展示物として他施設への貸出しを、2025 年度から予定している。

2. 青少年のための科学の祭典 2024 全国大会

(独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金)

「青少年のための科学の祭典」の開催

(詳細は、P17ー 2-2. ー (1) ー ①青少年のための科学の祭典全国大会を参照)

3. 教員のための理科実験スキルアップ講座

(公益財団法人東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発事業)

教員のための理科実験指導育成講座開催

(詳細は、P19ー 2-4. ー (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催を参照)

4. 科学技術映像祭

(一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会・共通目的基金)

(詳細は、P19-20ー 2-5. ー (2) 第 66 回科学技術映像祭開催に向けた準備を参照)

5. 「科学技術館の展示史に見る産業技術の変遷から技術史への興味を促す教育手法の調査研究」(一般財団法人新技術振興渡辺記念会)

一般財団法人新技術振興渡辺記念会の科学技術調査研究助成事業の助成金を活用し、「科学技術館の展示史に見る産業技術の変遷から技術史への興味を促す教育手法の調査研究」をテーマとして、科学技術館の過去の展示に関する資料を収集し、その資料をベースに展示や教育プログラムを実施して、技術史教育の手法について考察した。

6. 「地球環境のための安全・安心で豊かな生活に向けた科学技術」に関する特別展の実(公益財団法人 JKA)

(詳細は、P17-18ー 2-2. ー (4) 「地球環境のための安全・安心で豊かな生活に向けた科学技術」に関する特別展の開催(公益財団法人 JKA 補助事業)を参照)

ー以 上ー